

# 豊橋市議会代表質問傍聴記

## 地方政治クリエイト 伊藤 秀昭

㊦

■地域包括ケア  
公明党市議団を代表した鈴木博氏は健全な財政運営の指標、消費増税による地域経済への影響、保健・医療・福祉の推進、地域包括ケアシステム、少子化対策などについて質問を展開した。

その中で、予算編成についてはメリックシステム・インセンティブ、地域包括ケ

て、議論を深めていた。ただ、市長が答弁したように「日常生活圏域の特性を考慮した地域密着型のシステム」を作り上げていくかどうか、生活

「新年度予算が5つの重点化にどれだけ配分されたか」を計算し、産業振興に35億円、防災・減災対策に16億円、保健・医療・福祉の推進に123億円、環境対

にあり、そこへ消費税増税が重なるため、中小企業振興策と地域産業活性化策を強く要請した。

芳賀氏は、東三河広域連合と東三河県庁は東三河の地域づ

いっばい使った持続可能な地域を作るための連携体制の強化にある」とし、東三河

## 生活現場主義の地方議会の責任

現場に根づく地方議員の役割の重要性を肝に銘じてほしい。

■地域づくりのパートナー  
会派まちフォーラムを代表して質問に立った芳賀裕崇氏は

またアベノミクス効果が取りこぼされているが、中小企業は依然、厳しい状況

市長は「広域連合を設置する目的は20年後、30年後の東三河の姿を見据え、将

4人の代表質問は決められた60分を自



折しも、代表、一般質問の本会議開会中に、3年目の3・11を迎え、11日の午後2時46分には1分間の黙とうも行われた。

政治に携わる人たちは2万人を超える犠牲者の無念の思いを、災害に強い国、災害に負けない暮らしづくりに向けていた。

年度末に向けて最大会派の新政未来と第二会派の豊流会の合流が水面下で模索されているようであるが、会派の離合集散を繰り返してきた保守系の春の定例行事にはいいけない。

豊橋の、そして東三河の未来を切り開く政策集団への脱皮のためであることを期待したい。

(愛大地域政策学セクター研究員)